

⑤ 今後の進め方

- デジタル田園都市国家構想などの取組を活用し、「空間の高付加価値化」を実現するための暮らしのサービス設計を展開。同サービスを支える技術や仕組みを実現するという視点から、**暮らしサイドの取組の時間軸をあわせて、技術の社会実装プランを構築し、その実現・普及を進める。**



「デジタルを活用した交通社会の未来2022」の概要

(2022年8月1日 デジタル社会推進会議幹事会 決定)

- ITS・自動運転に係る政府全体の戦略である「官民ITS構想・ロードマップ」を発展的に継承し、デジタルを活用した交通社会の未来をどう描くかを示したもの
- 「デジタル社会の実現に向けた重点計画【※1】」で示す「モビリティの高度化の推進」に向け、官民が連携して技術開発や交通インフラの整備、制度整備等を進めるもの

【※1：令和4年6月7日閣議決定】

I はじめに

- ・ITS・自動運転に係る政府全体の戦略である「官民ITS構想・ロードマップ」を2014年にIT総合戦略本部にて決定。以降、最近の情勢変化等を踏まえ、毎年改定を行ってきた。
- ・ITSに関連する多くの府省庁や民間企業等の官民一体の取組により、2021年までに世界初の自動運転レベル3の乗用車の市場化、無人自動運転サービスを実現し、2022年には道路交通法改正により自動運転レベル4に向けた制度整備も行われるなど、ロードマップに基づいた取組は着実に進められている。
- ・しかし、地域における導入状況に目を向けると実証実験止まりとなっているケースが多く見られる。 → **今回は社会情勢を踏まえデジタルを活用した交通社会の未来をどう描くかという視点から検討**

II 課題認識

実証実験から本格的な社会実装に向けて

加速化する人口減少に伴う経済モデルの変化への対応

我が国社会が人口減少局面に入り、需要が供給に合わせる（例えば、乗客がバス停でバスを待つ）経済から、供給が需要に合わせる（サービス車両が乗客を迎えに行く）経済へのシフトが進展。交通サービスのスタイルも、需要データを起点にサービスを展開するモデルへと転換が迫られている。交通は人々の暮らしのベースとなるもので**人々の暮らし視点で考えることが必要**である。

社会実装の最初の起点となる暮らしの課題（ペインポイント）を探し、解決する

デジタル技術を活用しながら、供給を主体に考える経済から需要を主体に考える経済ヘシフトをしていくには民間の主体あるいは行政府による新たな投資が必要である。投資を行うためには、サービスの**社会実装の最初の起点となる人々の暮らしの課題（ペインポイント）を探し、解決することが重要である。その際、広く横断的に社会システム全体の課題として捉え、全体最適を図って限界費用を下げていくという視点を持つ**

III 暮らし目線からのサービス設計

サービス設計にあたっての11の視点

一人一人の暮らし目線を起点とし国内外で実装が進められた取り組みやその際に活用された実際の手法についての事例を整理し、その上で、社会実装を実現した事例から見えてきたポイントを示す。

「目指す先」を明確にする	取組の設計	取組の展開	共助のビジネスモデル
視点1：目指す先は各地域それぞれで決める 視点2：「暮らし目線」で目指す先を考える 視点3：目指す先を明確にしてから取組をスタートする	視点4：取組の設計はシステム思考・アーキテクチャ思考で考える。 視点5：モビリティ単体でビジネスモデルを考えない 視点6：デジタル活用に加えて、アナログ的な要素も重視する。	視点7：小規模な取組からスタートし回しながら大きくしていく 視点8：仕組みをメンテナンスする役割も必要 視点9：意志決定を支援する指標、データの活用	視点10：協調領域の考え方「共助のビジネスモデル」 視点11：好事例を取り入れ自律的に取組が展開する方向へ

IV 暮らしのサービス設計を支える技術や仕組みの実現

「空間の高付加価値化」を実現するための暮らしのサービス設計を展開する。

暮らしサイド	デジタル田園都市国家構想など政府全体の方向性を踏まえて、今後、ビジョンの明確化を実施する。
供給サイド	現在の官民の取組について、手段（輸送モード）ごとに整理。ITS・自動運転を中心とした枠組みから、「歩くから飛ばすまで」にスコープを拡大。 →「自動運転・運転支援」、「道路空間」、「モビリティサービス・MaaS」、「ドローン」、「空飛ぶクルマ」、「モビリティ分野 協調領域」の6分野で整理

サービスを支える技術や仕組みを実現するという視点から暮らしサイドの取組の時間軸を合わせて技術の社会実装プランを構築し、その実現・普及を進める。

V 実現に向けて

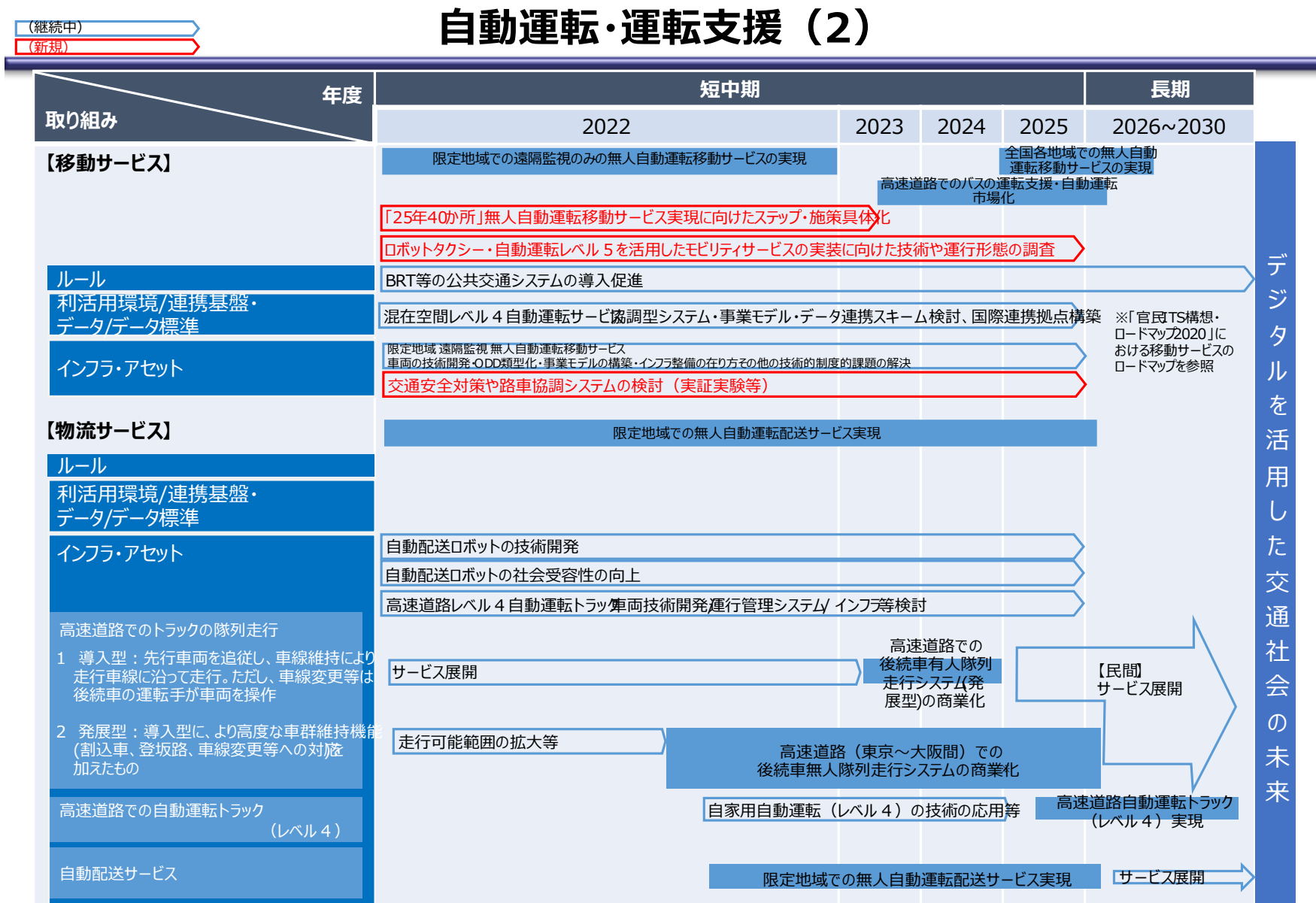
- ・今後、暮らしサイドのビジョンの明確化や暮らしサイドの取組と時間軸をあわせて、技術の社会実装プランを構築し、その実現・普及を進めていく必要。供給サイドの取組について、さらに俯瞰的に広く捉えていく必要もある。
- ・「官民ITS構想・ロードマップ」を発展的に継承したこの「デジタルを活用した交通社会の未来2022」は、あくまでも現時点でのスナップショットであり、今後ともアップデートを図っていく。

(参考) 今後の進め方：自動運転・運転支援（１）

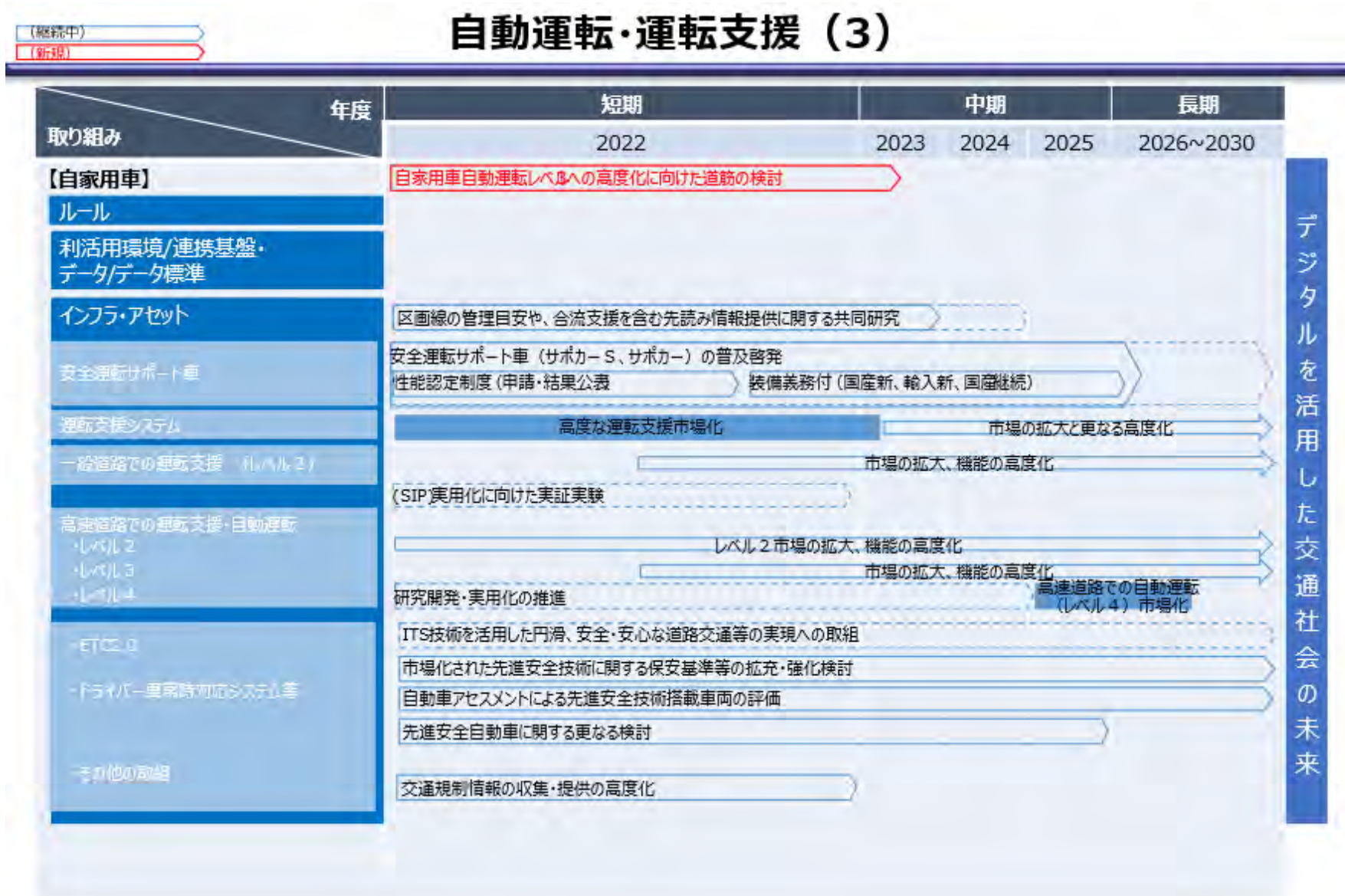
		自動運転・運転支援（１）			
		（継続中）			
		（新規）			
取り組み（	年度	短中期			
		2022	2023	2024	2025
【共通】		2026~2030			
ルール	【共通】	デマンドサイドと連鎖した取組の具体化			
		産業政策との関係性の具体化			
		道路使用許可に係る審査手続の合理化等、規制の合理化			
		基準緩和手続の合理化			
		スキル標準・認証制度等を競う大会の継続、国際イベント化			
		自動運転に係る国際基準・標準化の推進			
		道路交通に関する条約（ジュネーブ条約）との関係の整理			
		改正道路運送車両法の着実な運用			
		自動運転に係る保安基準の着実な運用、国際基準化の推進			
		社会実装に向けて制度整備を必要とする項目の洗い出し			
利活用環境/連携基盤・データ/データ標準		交通環境情報の収集・生成・配信技術の研究開発	交通環境情報の配信に向けた検討・事業化を推進		
		交通環境情報ポータルサイト	交通環境情報ポータルの事業化		
		自動運転システムへの新たなサイバー攻撃手法の動向、インシデント情報、対策技術等の調査等を実施し、特に侵入検知システム(IDS)等の導入・運用についてガイドライン化	業界団体での活用促進		
		V2X通信技術開発・普及促進			
		路車間通信を活用したシステムの市場展開			
		公開・運営（走行映像等のセンシングデータ）			
		公開・運営（事故データ）			
		ダイナミックマップの利活用拡大	ダイナミックマップの対象エリア拡大、地図更新等		
		協調型通信ロードマップの策定	社会実装・実用化の推進		
		地域課題解決型カーラIF等の実現に向けた開発実証	多様なSGサービスの展開・推進		
インフラ・アセット		仮想空間における安全性評価環境の構築	第三者機関等での利活用（事業化）		
		協調型自動運転通信インフラ整備に関する検討			
		社会経済的なインパクトの整理・定量的な予測			
		社会的受容性の醸成			
		各種公道実証の推進			
		SIPによる研究開発・東京臨海部等における実証実験	次期SIPでの利活用によりさらに発展		
		国際会議の開催、国際連携の推進	新たな学学連携により推進		

デジタルを活用した交通社会の未来

(参考) 今後の進め方：自動運転・運転支援（２）



(参考) 今後の進め方：自動運転・運転支援（3）



(参考) 今後の進め方：道路空間、モビリティサービス・MaaS

(参考) 今後の進め方：ドローン、空飛ぶクルマ

(継続中)

(新規)

ドローン

取り組み	年度	短中期				長期
		2022	2023	2024	2025	2026~2030
【ドローン】						
ルール		ドローンを活用した荷物等配送に関するガイドラインの改定、活用				
		機体認証制度及び操縦者技能証明制度等を開始				
		運航管理システムの安全基準等制度整備				
		高度150m以上の上空における電波利用に係る制度整備				
利活用環境/連携基盤・データ/データ標準		ドローンの運航管理システムに関する実証実験				
		ドローンの運航管理技術の開発				
インフラ・アセット		河川上空でのドローン物流の実現に向けた実証・支援強化				
		ドローンサミットの開催・情報共有プラットフォームの構築				
		行政ニーズに対応した汎用性の高いドローンの標準機体の性能仕様を策定				
		ドローンの機体の試験手法の開発				
		多数機運航を実現するために必要な機体・要素技術の開発・実証				
		農業向け高性能ドローンの開発				

デジタル社会の未来

デジタル社会の活用した未来

(継続中)

(新規)

空飛ぶクルマ

取り組み	年度	短中期				長期
		2022	2023	2024	2025	2026~2030
【空飛ぶクルマ】						
ルール		空飛ぶクルマの機体基準の整備			大阪・関西万博での空飛ぶクルマの実現	
		空飛ぶクルマの運航の安全基準及び操縦者の技能証明基準の整備				
		空港等や場外離着陸場に関する基準の整備				
		航空運送事業許可に係る審査基準の整備				
利活用環境/連携基盤・データ/データ標準		ドローン・空飛ぶクルマ・既存航空機のより安全で効率的な航行に必要な運航管理技術開発				
インフラ・アセット						

デジタル社会の活用した未来

大阪・関西万博での空飛ぶクルマの実現

デジタル社会の活用した未来

(参考) 今後の進め方：モビリティ分野 協調領域

